



Start M4 XXL, Start M6 Junior

JA 取扱説明書 (有資格担当者)

目次

1	はじめに.....	5
2	使用目的.....	5
2.1	使用目的.....	5
2.2	適応、禁忌.....	5
2.3	取扱技術者の条件.....	5
3	安全性.....	5
3.1	警告に関する記号の説明.....	5
3.2	安全に関する注意事項.....	6
3.3	組み立てに関する安全上の注意.....	6
3.4	ネームプレート.....	6
3.4.1	Start M4 XXL.....	7
3.4.2	Start M6 Junior.....	7
4	納品.....	7
4.1	納品時のパッケージ内容.....	7
4.2	オプション.....	7
4.3	保管方法.....	8
5	使用前の準備.....	8
5.1	組み立て.....	8
6	設定.....	8
6.1	前提条件.....	8
6.2	駆動輪の調整.....	9
6.2.1	駆動輪の水平位置設定.....	9
6.2.2	駆動輪垂直位置の調整.....	10
6.2.3	クイックリリース軸の調整.....	11
6.2.4	ハンドリムの調整.....	12
6.3	キャストの調整.....	12
6.3.1	キャスト軸首角度の調整.....	12
6.3.2	キャスト取り付け位置の変更.....	13
6.4	ブレーキの調整.....	14
6.4.1	ホイールロックの調整.....	14
6.4.2	ドラムブレーキ制動力の調整.....	14
6.5	シートの調整.....	15
6.5.1	シート奥行の調整.....	15
6.6	バックレストの調整.....	15
6.6.1	バックレストの高さ調整.....	15
6.6.2	バックレスト角度の調整.....	16
6.7	バックレストカバー/シートカバーの調整.....	16
6.7.1	バックレストカバーの調整.....	16
6.7.2	シートカバーの調整.....	16
6.8	レッグサポートの調整.....	17
6.8.1	下肢長さの調整.....	17
6.8.2	サポート角度の調整.....	18
6.8.3	「リフト式」レッグサポートの下肢背部パッドの調整.....	18
6.8.4	切断肢レストの調整.....	19
6.9	サイドパネルの調整.....	19
6.10	転倒防止具の調整.....	20
6.11	振り出し式転倒防止具の調整.....	21
6.12	ラップベルトの調整.....	22
6.13	ヘッドサポートの取り付けおよびサポート.....	22
6.14	輸送用車輪の調整.....	23
7	納品.....	23
7.1	最終点検.....	23
7.2	顧客への配送.....	23
7.3	製品の納品.....	23

8	メンテナンスと修理.....	23
9	廃棄.....	23
9.1	廃棄に関する注意事項.....	23
9.2	使用制限（再利用に関して）.....	23
10	法的事項について.....	23
10.1	保証責任.....	23
10.2	保証.....	24
10.3	耐用年数.....	24
11	テクニカル データ.....	24
12	追加情報.....	27
12.1	必要な工具.....	27
12.2	ネジ締め時のトルク値.....	28

1 はじめに

備考

最終更新日: 2020-01-08

- ▶ 本製品をご使用になる際は本書をよくお読みください。
- ▶ 下記の安全性に関する注意事項に従わないと、負傷したり製品が損傷するおそれがあります。
- ▶ 装着者には、本製品の安全な取り扱い方法やお手入れ方法を説明してください。
- ▶ 本書を安全な場所に保管してください。

備考

- ▶ 製品の安全性や回収に関する新しい情報ならびに適合宣言書については、oa@ottobock.comまたは、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までご連絡ください。
- ▶ 製品に関連して生じた重篤な事象は、すべて製造元（裏表紙の連絡先を参照）とお住まいの国の規制当局に報告してください。
- ▶ 本書のPDFファイルが必要な方は、oa@ottobock.com、または、製造業者のサービス窓口（裏表紙内側または裏表紙の連絡先を参照）までご連絡ください。PDFファイルは拡大表示も可能です。

本製品の主要設定は注文フォームに従って行われています。その場合でも、ユーザーの健康状態およびユーザーのニーズに応じて、微調整や設定を行う必要があります。

本取扱説明書は、設定の調整に必要な情報を供給するものです。この調整作業はユーザーと密接に協力しながら行ってください。

以下の指示に従ってください：

- ・ 本取扱説明書(有資格担当者用)は、有資格担当者のものであり、有資格者が保管してください。
- ・ 本製品の操作およびオプションの機能性は、取扱説明書(ユーザー用)に記載されています。これらの取扱説明書は必ずユーザーに渡してください。
- ・ メーカーは長期間にわたり最適にご利用いただけるように、本製品の設定を定期的に点検することを推奨しています。小児および未成年者が使用している場合、設定の見直しを6ヵ月毎に実施する必要があります。
- ・ 一般的に全てのオプションパーツの取り付けに関する情報は、サービスマニュアルに記載されています。
- ・ 製造元は、取扱説明書に記載されたモデルに技術的な変更を行う権利を有します。

2 使用目的

2.1 使用目的

本車椅子は、歩行障害または歩行不能の患者が自身または補助者の操作により日常屋内外で使用することのみを目的としています。

本製品は、それぞれの身体的条件(体の大きさや体重)のもと、使用目的に従って使用することができるユーザーに適した製品です。

本車椅子は、製品注文書に記載されているオプションを組み合わせるのみ使用することができます。

Ottobock は、モジュラーシステムに含まれていない製造業者による医療機器および付属品との併用に関して一切の責任を負いません。

併用が認証に基づいて組み合わされている製品に関しては有効性と安全性に関して評価されているため、例外となります。

使用目的に沿った方法で、取扱説明書(ユーザー用)に記載されている情報に従って使用した場合のみ、本車椅子の安全な使用を確保することができます。事故のない操作は最終的にユーザーの責任となります。

2.2 適応、禁忌

適応、禁忌に関する詳細情報は取扱説明書(ユーザー用)を参照してください。

2.3 取扱技術者の条件

取り付けおよび調整作業、修理、点検は有資格者のみが行うものとします。

3 安全性

3.1 警告に関する記号の説明

△警告 重大な事故または損傷の危険性に関する注意です。

△注意 事故または損傷の危険性に関する注意です。

注記 損傷につながる危険性に関する注記です。

3.2 安全に関する注意事項

△ 警告

使用方法の説明不足

使用方法の説明不足によるユーザーの転落、転倒の危険

- ▶ 納品の際にユーザーまたは補助者に本製品の正しい取り扱い方法を説明してください。

△ 注意

不適切な工具の使用

不適切な工具を使用することによる挟まり/挫滅または製品破損の危険

- ▶ 作業を実施する際は、職場環境に適した、適切に使用された場合安全性と健康が保護されている工具のみを使用してください。
- ▶ 「必要な工具」の章を参照ください。

注記

本製品の転倒または横転の危険

付属品不足による製品の破損

- ▶ 製品で作業を行う際には、横転または転倒しないよう製品を固定してください。
- ▶ 作業台で製品を扱う際は、クランプ取付台を使用して固定してください。

注記

不適切な梱包材の使用

不適切な梱包材の使用による輸送中の製品の破損

- ▶ 本製品の納品には、オリジナルの梱包を使用してください。

3.3 組み立てに関する安全上の注意

△ 警告

車輪のサイズや取り付け位置の変更

車輪のロックによるユーザーの転倒の危険

- ▶ 前輪のサイズや位置の修正および駆動輪のサイズ修正は、高速で走行するときに前輪がぐらつく原因となります。変更が必要な場合、車いすフレームが水平方向で揃っているかを確認してください(「駆動輪の調整」、「キャストの調整」の章を参照)。

△ 警告

転倒防止具を誤って取り付けることで発生する危険

インストール方法をよく確認せずに不適切な調整を行うと、ユーザーが転倒したり落下したりするおそれがあります

- ▶ シャーシの設定、車椅子の重心、背もたれの角度や利用者の使用経験により、転倒防止具が必要になる場合があります。
- ▶ 小さなホイールベースや背もたれが後ろに傾きすぎていると、利用者の使用経験によっては、両側に転倒防止具を取り付ける必要がでてくる場合もあります。
- ▶ 転倒防止具が正しく取り付けられ、調整されていることを確認してください。補助者のサポートにより適切な位置を探してください。

△ 警告

取り外し可能な車輪の不適切な組み立て

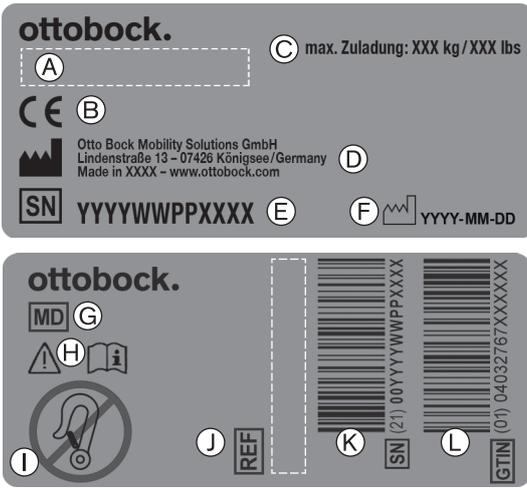
車輪の外れによるユーザーの転倒の危険

- ▶ 組み立て完了後には毎回、取り外し可能な車輪が正しく装着されていることを確認してください。クイックリリース軸は車輪アダプタにしっかりとロックされている状態にしてください。

3.4 ネームプレート

ネームプレートはクロスブレースにあります。

3.4.1 Start M4 XXL

ラベル表示	説明
	A 製造元での製品名
	B CEマーキング
	C 最大荷重(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	D 製造元情報/住所
	E シリアルナンバー ¹⁾
	F 製造日 ²⁾
	G 医療機器のマーク
	H 警告 ご使用になる前に、取扱説明書をお読みください。安全性に関する重要な注意事項をよくお読みください(警告や注意など)。
	I 本製品は、モビリティに制限のある方の場合、車で移動する際の座席としての使用はメーカーから承認されていません
	J 関連製品を示す製造元の製品番号
	K シリアルナンバー(PI) ³⁾ 、 ¹⁾
	L 国際商品識別コード(DI) ⁴⁾

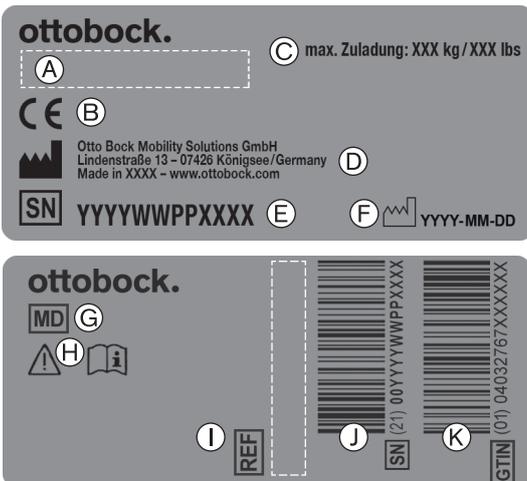
1) YYY Y = 製造年、WW = 製造週、PP = 製造場所、XXXX = 製造番号(連番)

2) YYY Y = 製造年、MM = 製造月、DD = 製造日

3) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、PI = 製造識別子

4) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、DI = 機器識別子

3.4.2 Start M6 Junior

ラベル表示	説明
	A 製造元での製品名
	B CEマーキング
	C 最大荷重(「テクニカルデータ」の章を参照してください)
	D 製造元情報/住所
	E シリアルナンバー ¹⁾
	F 製造日 ²⁾
	G 医療機器のマーク
	H 警告 ご使用になる前に、取扱説明書をお読みください。安全性に関する重要な注意事項をよくお読みください(警告や注意など)。
	I 関連製品を示す製造元の製品番号
	J シリアルナンバー(PI) ³⁾ 、 ¹⁾
	K 国際商品識別コード(DI) ⁴⁾

1) YYY Y = 製造年、WW = 製造週、PP = 製造場所、XXXX = 製造番号(連番)

2) YYY Y = 製造年、MM = 製造月、DD = 製造日

3) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、PI = 製造識別子

4) 機器識別情報(UDI-DI) からGS1識別コード、UDI = 機器固有識別子、DI = 機器識別子

4 納品

4.1 納品時のパッケージ内容

納品時のパッケージ内容

- ・ 事前に組立てられた車椅子
- ・ 駆動輪2輪(取り付け済みまたは同梱)
- ・ ご注文のオプション(取り付け済みまたは同梱)
- ・ 取扱説明書(有資格担当者用)、取扱説明書(ユーザー用)

シートクッションは標準パッケージには含まれません。

4.2 オプション

オプションの機能性および操作方法は、取扱説明書(ユーザー用)に詳しく記載されています。

ご利用いただけるオプション/付属品は全て注文書にリストアップされています。

4.3 保管方法

車椅子は乾燥した場所に保管してください。輸送および保管中の環境温度は、必ず-10° C および +40° Cの間を維持してください。

長期間保管する場合、タイヤの変形を防止するためにPU素材のタイヤが装着されている車椅子の膝レバーブレーキは解除してください。

タイヤには他の化学物質(洗剤、酸など)と反応する可能性のある化学物質が含まれています。

5 使用前の準備

5.1 組み立て

△ 注意

露出したピンチポイント

誤った取り扱いによる挟まり/挫滅の危険

- ▶ 車椅子を開く、または折りたたむ際は、把持できる場所として指定されている部品のみを握ってください。

△ 注意

使用前に使用準備が整っているか点検を行ってください

誤った取り付け、または調整による転倒や落下

- ▶ 初めて車椅子を使用する前に、有資格担当者のサポートを受けながらお選びになった設定をチェックしてください。
- ▶ 組立てを行うたびに、駆動輪が適切に取り付けられていることを確認してください。クイックリリース軸は、受けブッシングにしっかりとロックされている状態にしてください。
- ▶ 特に転倒に対する安定性、駆動輪の潤滑な回り、ホイールロックの正しい機能性について、注意を払ってください。
- ▶ タイヤ圧を点検してください。正しいタイヤ圧はタイヤ側面に印刷されています。両側でタイヤ圧が同じであることを確認してください。

- 1) 駆動輪をQuickchange軸に取り付けます。プッシュボタンを離した後、Quickchange軸は外せない状態になっている必要があります。
- 2) プッシュボタンを押し安全ストラップを緩め、車椅子を開きます。
- 3) 必要な場合: レッグサポートを取り付け具に挿入します。フットサポートを下に畳みます。
- 4) 必要な場合: シートカバーのフラップを前に引いてシートカバーにしっかりと固定します。
- 5) シートクッションを取り付けます。

6 設定

6.1 前提条件

△ 警告

誤った設定

誤った設定によるユーザーの転落、転倒、または不適切な姿勢

- ▶ 調整および取り付け作業は訓練を受けた有資格担当者のみが行います。
- ▶ 取扱説明書に記載された設定のみを行うことができます。
- ▶ 設定は認められている調整範囲のみで行ってください。それ以外では、本製品の安定性が損なわれることがあります(本章および「テクニカルデータ」の章を参照してください)。ご質問がある場合は、製造元のサービス部門(裏表紙の連絡先を参照)までお問い合わせください。
- ▶ テストは必ず補助者と一緒に行ってください。
- ▶ 明確に指示されていない限り、ユーザーが本製品に座った状態で設定を変更することはできません。
- ▶ 全てのテスト中は、落下を防止するためにユーザーを固定してください。
- ▶ ユーザーが座った状態で設定変更をテストを行う際には、事前に全てのネジがしっかりと接合されていることを確認してください。
- ▶ 納品前に安全性機能を点検してください。

△ 注意

ネジ接合が絞められていない

組み立てエラーによるユーザーの挟まり、挫滅、転倒、落下の危険

- ▶ 設定変更後、毎回取り付けネジおよびナットはしっかりと締め直してください。その際、指定されたトルク値を守ってください。
- ▶ ネジロック剤が塗布されたネジ接合を緩めるときは常に、新しいネジに交換しネジロック剤を塗布するか、使用していたネジ接続を戻し、強度が中程度のネジロック剤(Loctite 241など)を塗布してください。
- ▶ 解体後戻り止めネジおよびナットは常に新しいものと交換してください。

ユーザーの実際の身体的および精神的状態に合わせられるように、調整作業は常にユーザーと共に行ってください。

調整作業を実行する前にすべての部品をクリーニングしてください。

調整およびメンテナンス作業に必要なとなる工具およびネジ接続にかかるトルク値は「付属書」(27 ページ参照)の章に記載されています。

6.2 駆動輪の調整

△ 警告

ホイールベースが誤って調整されている

不安定な設定によるユーザーの転落や転倒の危険

- ▶ 駆動輪が前方位置に取り付けられており、ユーザーの姿勢の取り方によっては、平地であっても後方へ転倒することがあるため注意してください。
- ▶ ユーザーの経験が乏しく、駆動輪が極端な設定の場合、転倒防止具を使用してください。
- ▶ 大腿切断者のため、駆動輪は必ず後部に向かって設置してください。それにより車椅子の安定性が改善します。

△ 警告

駆動輪の微調整が行われていない

誤った設定によるユーザーの転落、転倒

- ▶ 車椅子の転倒に対する安定性および駆動輪の機能など、車椅子の標準設定についてチェックしてください。あらゆる極端な設定を避けてください。

備考

また、駆動輪位置を変更すると、キャスト軸首と地面間の角度も変わります。しかし、これは常に約90° でなければならないため、再調整が必要になります。また膝レバーブレーキも再調節する必要があります。

6.2.1 駆動輪の水平位置設定

駆動輪の水平方向の位置を変更することができます。

駆動輪の位置変更は以下に影響を与えます：

駆動輪位置	影響
後方に移動(パッシブ設定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ より大きなホイールベース ・ より大きい回転半径 ・ 車椅子の安定性が増す ・ 障害物を超える際に、車椅子の取り扱いが容易になります。 ・ 未経験のユーザーのための推奨位置
前方へ移動(アクティブ設定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ より小さなホイールベース ・ キャスターへの負荷が少ない=より操車しやすい ・ 車椅子の安定性が減少 ・ 障害物を超える際に、車椅子が後方に向かって倒れやすくなります 情報: 必要に応じて転倒防止具を取り付けてください。 ・ 経験のあるユーザーに限り推奨される設定

Start M4 XXL

駆動輪は駆動輪アダプターアダプター内の3つの深さに取り付けることができます。

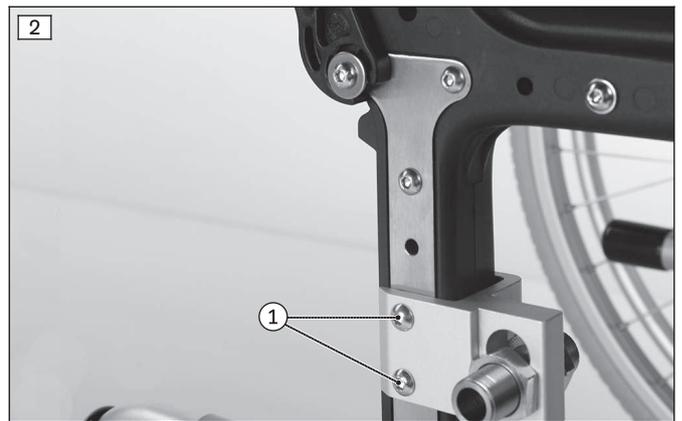
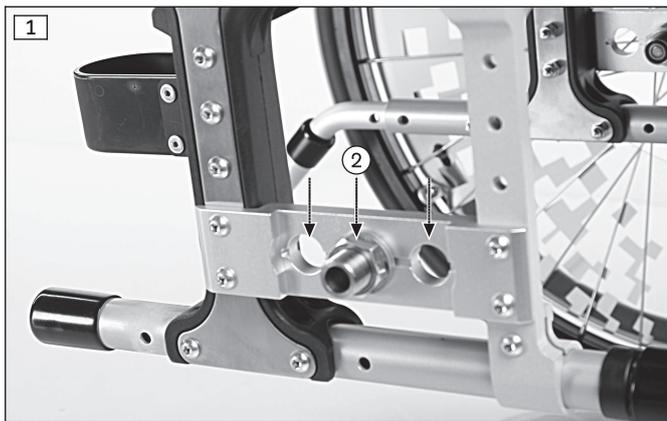
- 1) 車輪を外します。
- 2) 六角ナット(画像参照 1、 2)を接続金具から緩め接続金具を内側に外します。
- 3) 接続金具をご希望の位置にスライドさせ、六角ナットを軽く締めます。

- 4) 必要な場合：駆動輪とサイドパネル間の距離は接続金具上のナットを回して無段階で調整することができます。
- 5) 各六角ナットとカウンターナットを両側の接続金具に 50 Nmで締めます。
備考: 調整後、接続金具とサイドパネルの間の距離が左右で同じになっていなければなりません。
- 6) 深さの設定を点検します。両側が全く同じ位置でなければなりません。必要に応じてもう一度調整を行います。
- 7) 必要な場合: キャスター取り付け具 (12 ページ参照) およびブレーキ (14 ページ参照)の高さと配置を再調整します。

Start M6 Junior

駆動輪は駆動輪アダプターを使って2つの深さに取り付けることができます。

- 1) 車輪を外します。
- 2) 駆動輪アダプターの取り付けネジを両方外します (画像参照 2、1)。
- 3) 駆動輪アダプターを前後に回転させご希望の位置に配置します。
- 4) 2個の取り付けネジを駆動輪アダプターに 10 Nmで締めます。
- 5) 必要な場合：駆動輪とサイドパネル間の距離は接続金具上のナットを回して無段階で調整することができます。
- 6) 各六角ナットとカウンターナットを両側の接続金具に 50 Nmで締めます。
備考: 調整後、接続金具とサイドパネルの間の距離が左右で同じになっていなければなりません。
- 7) 深さの設定を点検します。両側が全く同じ位置でなければなりません。必要に応じてもう一度調整を行います。
- 8) 必要な場合: キャスター取り付け具 (12 ページ参照) およびブレーキ (14 ページ参照)の高さと配置を再調整します。



6.2.2 駆動輪垂直位置の調整

駆動輪の垂直方向の位置はホイールアダプターをフレーム上で垂直に移動させ調整します。

キャスターホイールの高さ調整と併用することにより、シートの高さを個々のニーズに合わせて最適に調整することもできます。

駆動輪の位置変更は以下に影響を与えます：

駆動輪位置	影響
上方へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駆動輪位置を高くすればするほど、シート表面の角度が後部へ傾きます。 ・ 障害物を超える際に、車椅子が後方に向かって倒れやすくなります ・ より低い位置に重心を変更すれば、車椅子のシート位置はより安定したものになります。 ・ シート高をさらに調整するにはキャスターの高さ調整と組み合わせて行うことができます。
下方へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駆動輪位置を低くすればするほど、シート表面の後部への傾き角度が減少します。 ・ 障害物を超える際に、車椅子の取り扱いが容易になります。 ・ シート高をさらに調整するにはキャスターの高さ調整と組み合わせて行うことができます。

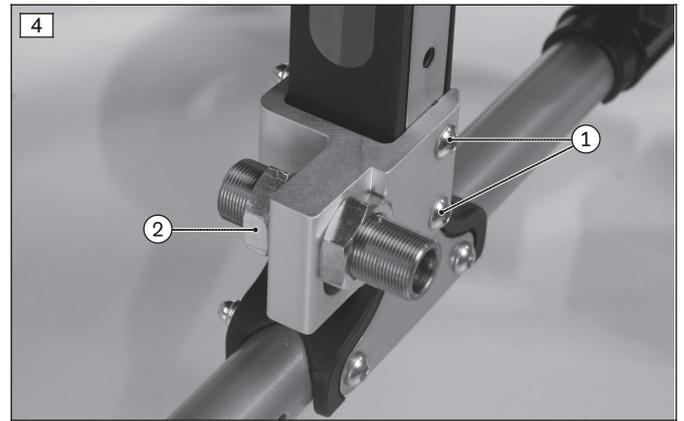
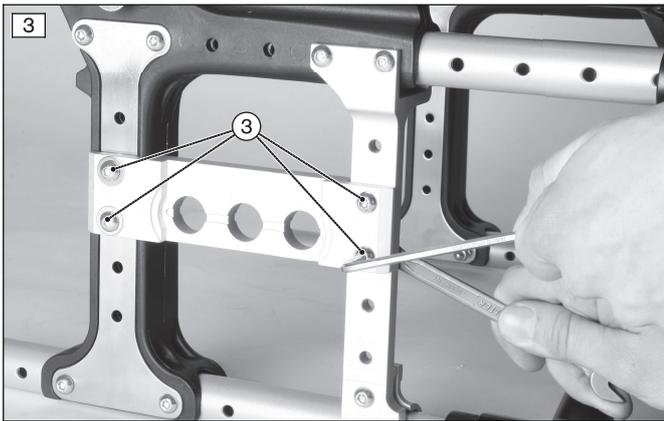
駆動輪アダプターの高さは、4つの位置で調節することが可能です。

Start M4 XXL

- 1) 車輪を外します。
- 2) 駆動輪アダプターの取り付けネジを両方外します (画像参照 3、 3)。
- 3) 駆動輪アダプターを希望する高さにスライドさせます。
- 4) 取り付けネジを再び挿入し 10 Nmで締めます。
- 5) 高さの設定を点検します。変更後、左右の駆動輪アダプターは、フレームにおいて必ず同じ垂直位にしてください。必要に応じてもう一度調整を行います。
- 6) 必要な場合: キャスター取り付け具 (12 ページ参照) およびブレーキ (14 ページ参照)の高さと配置を再調整します。

Start M6 Junior

- 1) 車輪を外します。
- 2) 駆動輪アダプターの取り付けネジを両方外します (画像参照 4、 1)。
- 3) 駆動輪アダプターを希望する高さにスライドさせます。
- 4) 取り付けネジを再び挿入し 10 Nmで締めます。
- 5) 微調整: 駆動輪アダプターのスロット穴で接続金具を移動させ、この範囲を超える駆動輪の位置調整を行うことができます。接続金具の両側にある各六角ナットとカウンターナットを緩め、接続金具をスライドさせて六角ナット/カウンターナットを 50 Nmで締めます。
備考: 設定後、左右の接続金具は正確に同じ高さになっている必要があります。
- 6) 高さの設定を点検します。変更後、左右の駆動輪アダプターは、フレームにおいて必ず同じ垂直位にしてください。必要に応じてもう一度調整を行います。
- 7) 必要な場合: キャスター取り付け具 (12 ページ参照) およびブレーキ (14 ページ参照)の高さと配置を再調整します。



6.2.3 クイックリリース軸の調整

クイックリリース軸は車輪がきちんとはまり、軸上に遊びがない状態でセットされている必要があります。

- 1) クイックリリース軸のヘッド部(レンチサイズ: 19 mm) と末端部(レンチサイズ: 11 mm) をそれぞれレンチとスパナで掴みます。
- 2) クイックリリース軸の末端部にあるナットを回転させ遊びを調整します(画像参照 5、 1)。



6.2.4 ハンドリムの調整

備考

この章は標準ホイールを取り扱ったものではありません。

全てのハンドリムは駆動輪からの距離が 15 mm (標準設定) および 25 mm であることを想定して設計されています。

- 1) タイヤを完全に外します。
- 2) ハンドリムのネジ接合を緩める/取り外します (画像参照 7)。
- 3) ハンドリムをリムの狭い/広い取り付け位置にネジで締め付けます。
- 4) 再びタイヤを完全に取り付けます。

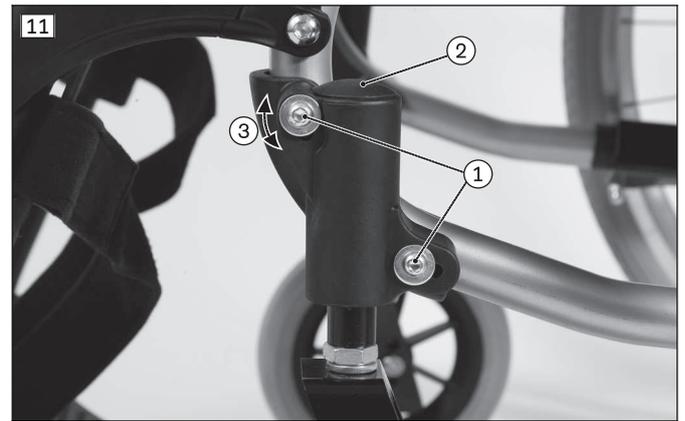
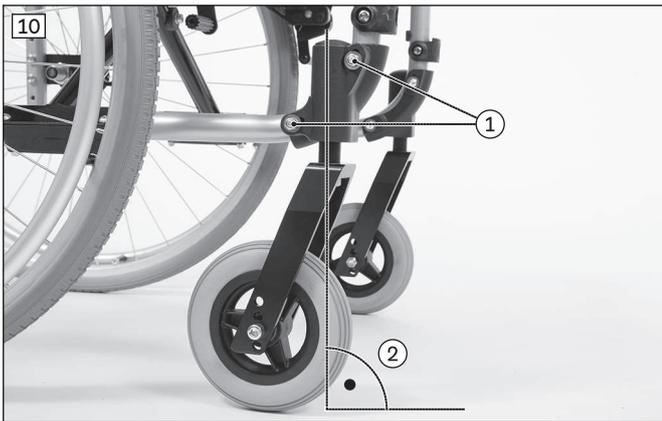


6.3 キャスターの調整

6.3.1 キャスター軸首角度の調整

ユーザーのために駆動輪を調整した際には、前輪アダプターにあるキャスター軸首も必ず調整してください。各2つあるキャスターヘッドねじ山の付いた軸は、車椅子の最適な走行特性を実現するために、地面に対して垂直にしてください。キャスター軸首ベアリングはこの角度の継続的な調整を可能にします。

- 1) キャップを外します(画像参照 10、 1)。
 - 2) キャップの下、キャスター軸首ベアリングとフレームの間の六角穴付きボルトを少し緩めます(画像参照 11、 1)。
 - 3) キャスター軸首ベアリング上にあるキャップを外します(画像参照 11、 2)。
 - 4) 同梱の測定ツール(水準器) をキャスター軸首ベアリングの上面、動作方向にあてます(画像参照 11、 1)。
 - 5) キャスター軸首ベアリングが地面に対して垂直な角度になるように調整します(画像参照 11、 3)。
 - 6) 六角穴付きボルトを 8 Nm で締めます。
 - 7) キャップを再び取り付けます(画像参照 10、 1)。
- 各キャスター軸首ベアリングに載っているキャスター軸は垂直に配置されている必要があります(画像参照 10、 2)。



6.3.2 キャスター取り付け位置の変更

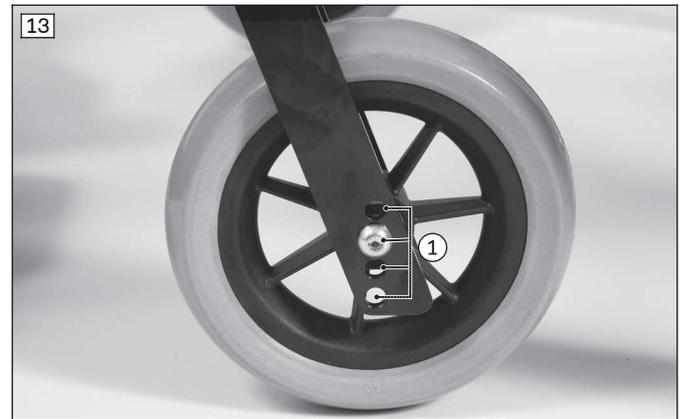
そのあとシートの高さ/角度は、キャスターフォークのキャスターの位置調整または異なるホイールサイズを使用することにより後日修正することができます。

認められている駆動輪とキャスターホイールの組み合わせについては、「テクニカルデータ」の章のインストールマトリックスを参照してください。

- 1) ネジ山のある軸のネジ接合を緩めます (画像参照 12、 1)。
- 2) ネジねじ山の付いたスリーブ、スペーサー、ナットを外します。
- 3) キャスターを外します。
- 4) ネジねじ山の付いたスリーブを1つ目のスペーサーブッシュと一緒に4つの穴の1つに挿入します (画像参照 13、 1)。
- 5) キャスターを取り付けます。
- 6) 該当する場合、2つ目のスペーサーブッシュも通します(図示なし)。
- 7) ネジ/ナットを 8 Nm で締めます。

→ 変更後、キャスターは、キャスターフォークにおいて同じ垂直位にしてください。

→ 前シート高さを調整後、キャスター軸首の角度を必ず点検し、必要に応じて再調整してください。



6.4 ブレーキの調整

6.4.1 ホイールロックの調整

警告

ブレーキ機能の確認を怠ることで発生する危険

誤った調整や空気の抜けたタイヤによる事故やユーザーが転倒するおそれがあります

- ▶ ホイールロックボルトとタイヤの間隔が正しいものであるか点検してください(詳細は以下の章を参照)。
- ▶ ホイールロックボルトがタイヤに対して正しい位置にあることを確認します。ブレーキ中、ホイールロックボルトは少なくともタイヤ幅の半分をカバーできる状態にしてください。
- ▶ ホイールロックの調整は常に両側で実施してください。
- ▶ ホイールロックはユーザーがスムーズに操作できる状態であることを確認してください。ホイールロックをかける力は60 Nを超えないようにしてください。
- ▶ 駆動輪のタイヤ圧を確認してください。「テクニカルデータ」またはタイヤ側面にある記載の内容をご参照ください。
- ▶ 半径振れの検証値が 1 mm以下の純正駆動輪のみを使用してください。

この調整は駆動輪の位置変更後、または微調整中に必ず行ってください。

- 1) クランプブラケット上の六角穴付きボルトを緩めます。(画像参照 14)。
 - 2) 膝レバー・ブレーキは無段階でスライドさせ、調整することができます。ホイールロックが解除されたとき、タイヤとホイールロックボルトの間隔は 5 mm(画像参照 15) 以下にしてください。
 - ホイールロックボルトと駆動輪間の距離はブレーキが掛けられていない状態で 1-5 mm でなければなりません。
 - ブレーキは両側で均等に簡単に操作できる状態でなければなりません。
 - 静止状態ではホイールロックボルトが駆動輪を確実にロックしている状態でなければなりません。
 - 3) 六角穴付きボルトを 16 Nm で締めます。
- 調整後、左右の膝レバー・ホイールロックは両方とも、同じブレーキ効果を得ている必要があります。



6.4.2 ドラムブレーキ制動力の調整

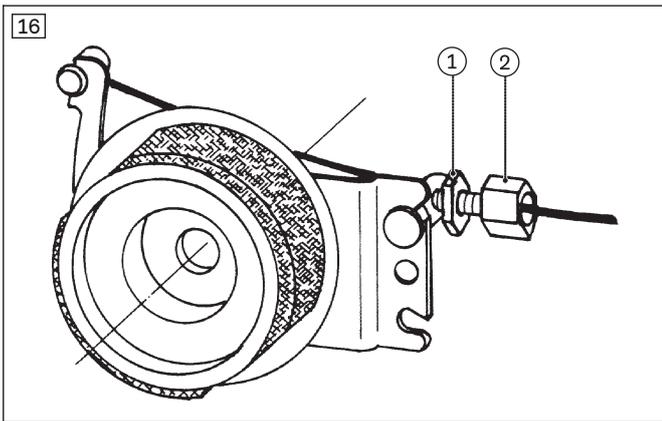
備考

調整後、手動ブレーキレバーが十分な制動効果を発揮しているかを確認してください。

ドラムブレーキは、手動ブレーキがラチェット位置にロックされていても十分な制動力を提供できるものにしてください。

最適な制動効果を得るため、制動力を調節ネジで調整することができます(画像参照 16、 2)。

- ・ 制動力の増加: 調節ネジを戻す。
 - ・ 制動力の減少: 調節ネジをねじ込む。
- 1) ロックナットを緩め(画像参照 16、 1) 後輪を回転させる際にきしみ音が聞こえるまで調節ネジを戻してください。
 - 2) 後輪のきしみ音が聞こえなくなり、車輪が自由に走行するまで調節ネジをねじ入れてください(画像参照 16、 2)。
 - 3) 調節ネジが固定されるまでロックナットを締めてください(画像参照 16、 1)。
- 両方の後輪の制動力は、等しく調節してください。

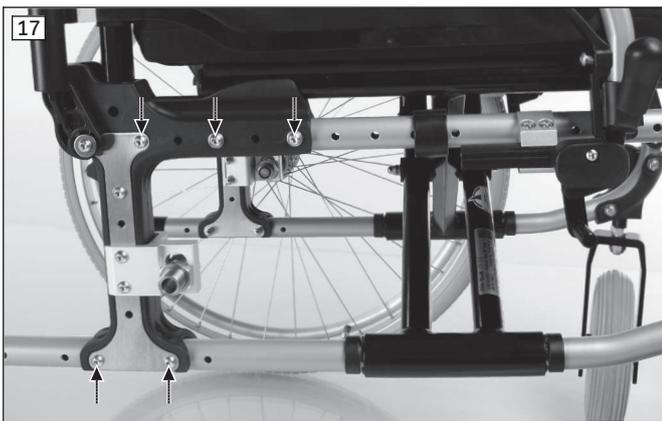


6.5 シートの調整

6.5.1 シート奥行の調整

シート面の水平位置は最大 90 mm まで3段階で移動させることができます。

- 1) シートクッションとバックレストパッドを緩めカバーの面ファスナーから外します。
- 2) 中央ユニットとフレームパイプの間にある全ての六角穴付きボルトを緩めて外します（画像参照 17）。
- 3) 中央ユニットをフレームパイプ状で水平にスライドさせます。設計に応じて、シートの奥行は30 mm単位で3つの位置に設定することができます。
- 4) 全ての六角穴付きボルトを取り付け、8 Nmで締めます。
- 5) バックレストパッドをシートカバーに面ファスナーで再び取り付けます。
- 6) シートクッションをシートカバーの面ファスナーに押し付け、滑らないように固定します。

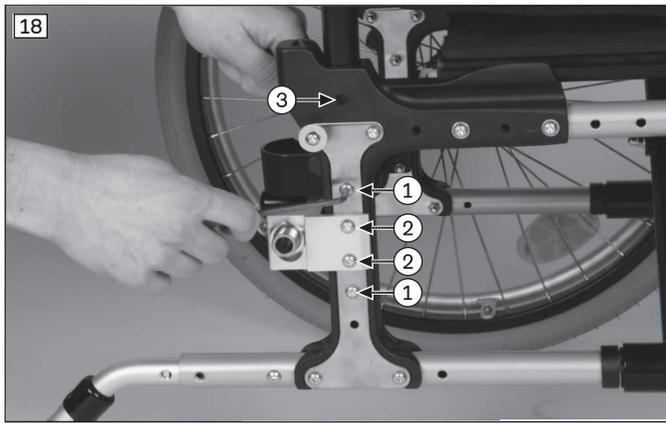


6.6 バックレストの調整

6.6.1 バックレストの高さ調整

バックレストの高さは75 mm調整可能です。バックレストの高さは、中央ユニットのバックレストパイプを25 mm単位で移動させ設定します。

- 1) 駆動輪を外し、車椅子をジャックアップして固定します。
- 2) 中央ユニットの垂直方向取り付け具から全ての六角穴付きボルトを緩めて外します（画像参照 18）。
- 3) バックレストパイプをご希望の高さにスライドさせます。バックレストパイプは両側で同じ高さになるように設定されなければなりません。
- 4) 中央ユニットにすべての六角穴付きボルトを再び挿入し、以下の締め付けトルクで締めます：
 - 六角穴付きボルト 1: 8 Nm
 - 六角穴付きボルト 2: 10 Nm
- 5) バックレストを最大の高さに設定する場合、中央ユニットの最上部の穴にプラスチック製スペーサーを付けた追加のネジを取り付けてください（画像参照 18、3）。これは「481D53=ST170スタンダードバックレストパイプ変更キット」に含まれています。



6.6.2 バックレスト角度の調整

バックレスト角度の調整に関する詳細は取扱説明書(ユーザー用)に記載されています。

6.7 バックレストカバー/シートカバーの調整

6.7.1 バックレストカバーの調整

備考

バックレストがうまく調整されている場合、車椅子のユーザーは長時間快適に車椅子を利用することができ、二次的な負傷や締め付けのリスクを低減します。

備考

ユーザーの骨盤が車椅子のできるだけ後方、つまりバックレストパイプの間に配置されていることを確認してください。

調節可能なバックレストカバーではユーザーのニーズに合わせ各セグメントを調整することができます。

- 1) シートクッションを外します。
- 2) バックレストパッドを引き上げ、バックレストカバーの面ファスナーから外します。
- 3) バックレストストラップを緩め、面ファスナーを使って希望する張りになるように締めます(画像参照 19)。
- 4) バックレストパッドをあて、バックレストカバーの面ファスナーに固定します。
- 5) シートクッションを載せ、面ファスナーで固定します。



6.7.2 シートカバーの調整

シートカバーは通常試運転の際に調整する必要はありません。しかし、張りを調整することはできます。

備考

シートカバーのたわみをわずかに調整することで、重点を軽く修正することができます。しかし、重点に関わる大掛かりな修正にはフレーム、駆動輪アダプター、キャスターホイールの設定の変更が必要になります。

- 1) 車椅子を畳みシートクッションを外します。
- 2) 保護キャップを外します(画像参照 20)。
- 3) シートカバーを筋交いから外します(図示なし)。

- 4) 必要に応じて、シートカバーを面ファスナーを使ってシートカバー底部に取り付けます (画像参照 21)。
- 5) シートカバーを筋交いにかぶせます。
- 6) 保護キャップを取り付けます。
- 7) 車椅子を開きます。これによりサポートガイドの上でクロスブレースが完全に張ります。



6.8 レッグサポートの調整

6.8.1 下肢長さの調整

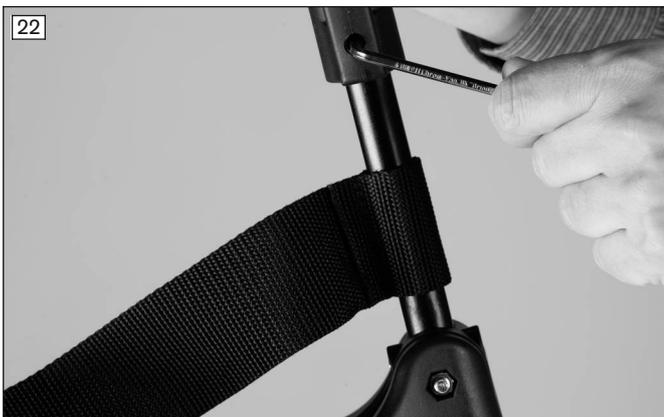
適切なレッグレストの高さはユーザーの下肢長さおよびシートクッションの厚さにより異なります。

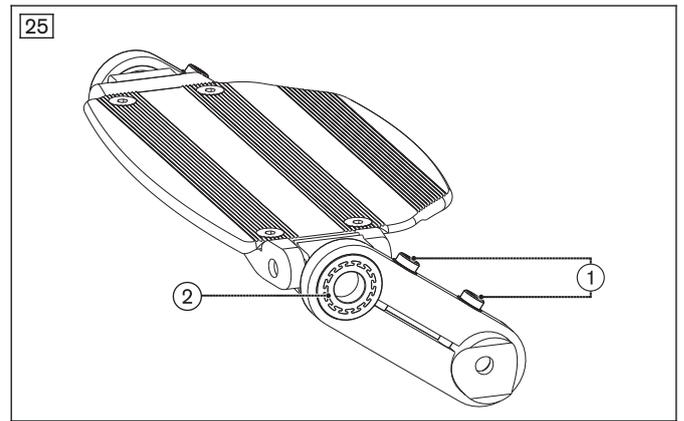
「分割型、角度調整可能」なレッグサポート、「無段階」レッグサポート、「リフト式」レッグサポート

- 1) 六角穴付きボルトを緩めます：
 - 「分割型、角度調整可能」なレッグサポート: 画像参照 22
 - 「無段階」レッグサポート: 画像参照 23
 - 「リフト式」レッグサポート: 画像参照 24
- 2) フットプレートバーをユーザーの下肢長さに合わせて調整します。
備考: フットプレートバーが旋回部分に少なくとも 40mm (マーキングあり) 挿入されていることを確認してください。
- 3) 六角穴付きボルトを 6 Nm で締めます。

下肢長さが短い場合のレッグサポート

- 1) クランプネジを緩めます (画像参照 25、 1)。
- 2) フットサポートをご希望の高さ、深さに移動させます。必要に応じてもう一度角度を調整します (画像参照 25、 2)。
- 3) クランプねじを 9 Nm で締めます。





6.8.2 サポート角度の調整

足首がリラックスした快適な位置にくるよう一番大きい角度設定を選択してください。

「分割型、角度調整可能」なレッグサポート

- 1) フットプレート上の六角穴付きボルトを緩めます (画像参照 26、 1)。
- 2) フットサポートをご希望の角度に回転させます (画像参照 26、 2)。
- 3) 六角穴付きボルトを 6 Nm で締めます。

「無段階」レッグサポート

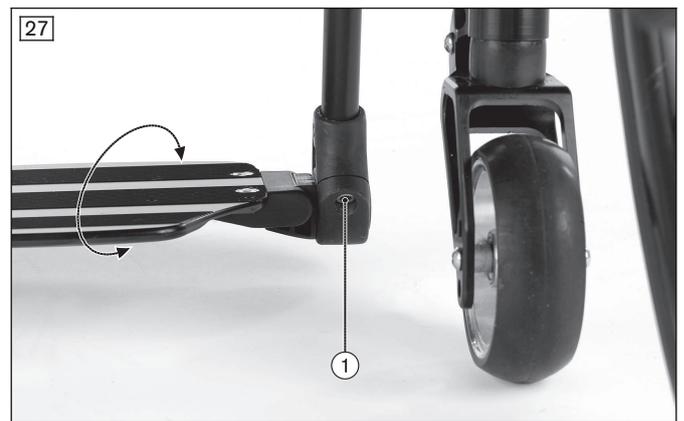
- 1) フットプレートの吊り部後ろにある六角穴付きボルトを数回か回して緩めます (画像参照 27、 1)。
- 2) フットサポートをご希望の角度に回転させます。
- 3) 六角穴付きボルトを 10 Nm で締めます。

下肢長さが短い場合のレッグサポート

- 1) 上のクランプネジを緩めます (画像参照 25、 1)。
- 2) フットサポートをご希望の角度に回転させます (画像参照 25、 2)。
- 3) クランプねじを 9 Nm で締めます。

「リフト式」レッグサポート

追加情報は取扱説明書 (ユーザー用) を参照してください。



6.8.3 「リフト式」レッグサポートの下肢背部パッドの調整

このタイプのレッグサポートの下肢背部パッドでは高さを調整することができます。

- 1) クランプユニット取り付けネジを緩めます (画像参照 28)。
- 2) 下肢背部パッドをご希望の高さにスライドさせます。
- 3) 取り付けネジを再び締めます。



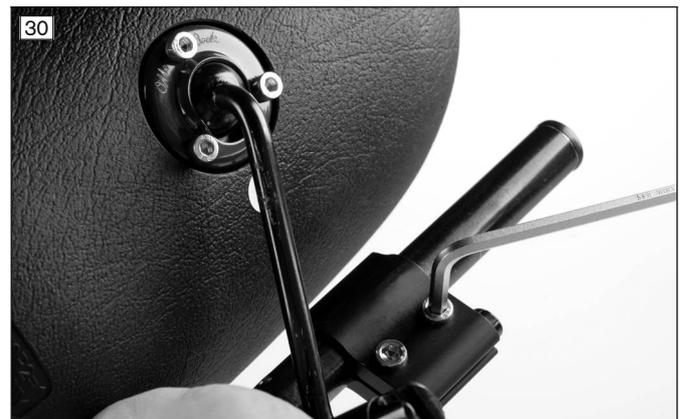
6.8.4 切断肢レストの調整

切断肢サポートのサポート角度の調整

この角度調整は「リフト式」レッグサポートの角度調整と同じ方法で行います。追加情報は取扱説明書（ユーザー用）を参照してください。

パッドの調整

- 1) パッドの角度：3本の六角穴付きボルトを緩め、下肢背部パッドをご希望の角度に合わせます（画像参照 29）。六角穴付きボルトを再びしっかりと締めます。
- 2) パッドの高さ：クランプブラケット上の六角穴付きボルトを緩め高さを調整します（画像参照 30）。六角穴付きボルトを再びしっかりと締めます。



6.9 サイドパネルの調整

「スタンダード」サイドパネル、「段付き」机用サイドパネル

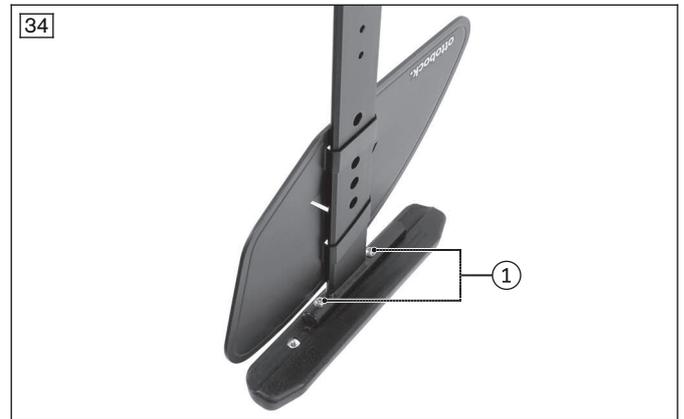
前腕サポートの高さはスペーサーを移動させて調整することができます。

- 1) 六角穴付きボルトを両方とも外します（画像参照 31）。
- 2) 前腕サポートを外し、スペーサーを必要に応じて配置します（画像参照 32）：
 - 両スペーサーはサイドパネルパイプの下にあります（画像参照 31）。
 - 両スペーサーはサイドパネルパイプの上にあります（画像参照 32）。
 - スペーサーはサイドパネルパイプの上にあります。スペーサーはサイドパネルパイプの下にあります（図示なし）。
- 3) 前腕サポートをサイドパネルパイプの上に載せます。
備考：この段階で前腕サポートの深さも調整することができます。
- 4) 両六角穴付きボルトを挿入ししっかりと締めます（画像参照 31）。



「はめ込み式」サイドパネル

- 1) 前腕サポートの高さ調整: ポールペンまたはドライバーで皿穴ロックボタンを押し、サイドパネルをご希望の位置にスライドさせます(画像参照 33)。
 注意! ロックボタンは誤った操作を防止するために皿穴形状になっています。ロックボタンを押すには常に適切な物品/工具を使い、指は使わないでください。
- 2) 前腕サポートの奥行調整: 前腕サポートの下の取り付けネジを緩め、前腕サポートを移動させ、取り付けネジをしっかりと締め直します(画像参照 34、1)。



「高さ調整可能」なサイドパネル

追加情報は取扱説明書(ユーザー用)を参照してください。

6.10 転倒防止具の調整

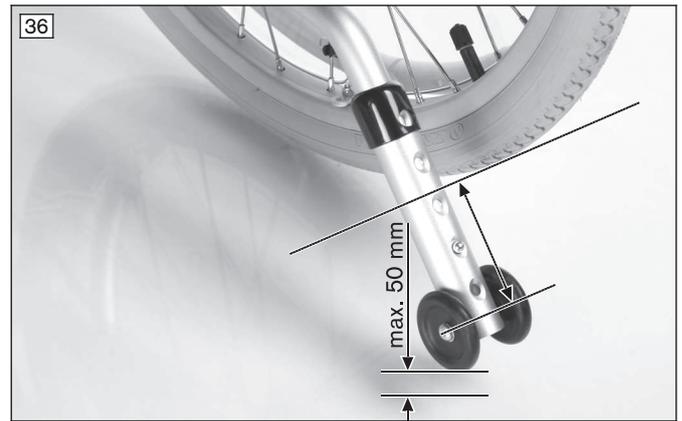
△ 警告

転倒防止具を誤って取り付けることで発生する危険

インストール方法をよく確認せずに不適切な調整を行うと、ユーザーが転倒したり落下したりするおそれがあります

- ▶ シャーシの設定、車椅子の重心、背もたれの角度や利用者の使用経験により、転倒防止具が必要になる場合があります。
- ▶ 小さなホイールベースや背もたれが後ろに傾きすぎていると、利用者の使用経験によっては、両側に転倒防止具を取り付ける必要がでてくる場合もあります。
- ▶ 転倒防止具が正しく取り付けられ、調整されていることを確認してください。補助者のサポートにより適切な位置を探してください。

- 1) 転倒防止具のパイプ下部にあるバネボタンを押します(画像参照 35、1)。
- 2) 転倒防止具の長さを調整します(画像参照 35、2) :
 → 転倒防止具ローラーと地面との距離は 50 mm までです(画像参照 36)。
 → 少なくとも、転倒防止ローラは後輪の最大直径を超える位置に突出している必要があります(画像参照 36)。
- 3) バネボタンがはまります。



6.11 振り出し式転倒防止具の調整

⚠ 警告

振り出し式転倒防止具を誤って取り付けることで発生する危険

インストール方法をよく確認せずに不適切な調整を行うと、ユーザーが転倒したり落下したりするおそれがあります

- ▶ シャーシの設定、車椅子の重心、背もたれの角度や利用者の使用経験により、振り出し式転倒防止具が必要になる場合があります。
- ▶ 転倒防止具の外側のアームはタイヤの最大直径を超える位置に突出している必要があります。この基本設定は有資格者のみが行ってください。
- ▶ 床と転倒防止具の下縁間の距離は 50 mm までです。この基本設定は有資格者のみが行ってください。
- ▶ 転倒防止具が正しく取り付けられ、調整されていることを確認してください。補助者のサポートにより適切な位置を探してください。

必要に応じて、振り出し式転倒防止具の長さと高さを車椅子の状態に合わせて調整してください。

振り出し式転倒防止具の長さ調整

- 1) 図解されている六角穴付きボルトを緩めます (画像参照 37、1/2)。
- 2) 転倒防止具クランプのピボット点がタイヤの外径と揃うまで、取り付けプレートのスロット上で六角穴付きボルトをスライドさせます (画像参照 37、3)。
- 3) 六角穴付きボルトをしっかりと締めます。

振り出し式転倒防止具の高さ調整

- 1) 図解されている六角穴付きボルトを緩めます (画像参照 37、2)。
- 2) 六角穴付きボルトをスペーサーとともに必要な分だけロッキングプレートの穴上で移動させます (図示なし)。
- 3) 転倒防止具クランプの下面が地面から 約20~30 mm (最大50 mm) の位置になるように調整します (画像参照 37、距離単位 mm)。
- 4) 六角穴付きボルトをしっかりと締めます。



6.12 ラップベルトの調整

△ 注意

不適切な調整による危険性

調整方法を誤ると、ユーザーの負傷、座る位置の不具合、疾患の原因となります

- ▶ 有資格者が責任を持ってベルトシステムの位置や調整を行ってください。
- ▶ ベルトシステムを締め付けすぎると、ユーザーが痛みを感じたり疾患の原因となります。
- ▶ ベルトシステムを緩めすぎると、利用者の座り位置がずれて危険な体位になるおそれがあります。さらに、位置がずれることで、衣服のボタンなど固い部分によって固定用スナップが不意に開くことがあります。

△ 注意

使用方法の説明不足

情報が正しく伝わっていない場合、ユーザーの負傷、座る位置の不具合、疾患の原因となります。

- ▶ ユーザーおよび/または補助者/看護者がベルトシステムの正しい調整、使用、メンテナンス、お手入れ方法を理解していることを確認することは有資格者の責任となります。
- ▶ 特に、緊急時に備えて、ユーザーおよび/または補助者/看護者がこの製品を素早く緩め、開ける方法を理解していることを確認してください。

設定に関する情報は、それぞれの製品に同梱されている製造元の取扱説明書を確認してください。

6.13 ヘッドサポートの取り付けおよびサポート

△ 注意

誤った設定

装着者が乱暴に頭部を動かすと、パーツに当たる危険性があります。

- ▶ 調整中はヘッドサポートよりも後ろに下がらないでください。必ず横にしているようにしてください。

マウントキットの取り付け

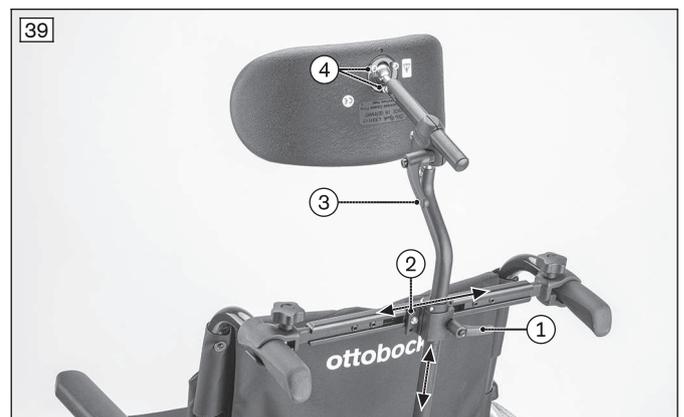
- 1) プッシュハンドルが平行に同じ高さになるように調整します(図示なし)。
 - 2) プッシュハンドルにクランプジョーと星形ハンドルを使ってヘッドサポートを支えるマウントキットを取り付けます(画像参照 38、 1)。
- 取り付けに関する詳細は同梱の取扱説明書(製品番号 647G367)に記載されています。

ヘッドサポートの取り付け

- 1) マウントキット上のクランプブラケットを開きます。(画像参照 38、 2)。
- 2) ヘッドサポートの調整パイプをクランプブラケットに挿入します(画像参照 38、 3)。

ヘッドサポートの調整

- 1) 高さ調整: クラмпレバーを緩め、ヘッドサポートの高さを調整します(画像参照 39、 1)。
- 2) 横方向調整: クラмпプレートを取り付けネジを緩め、ヘッドサポートの横方向位置を調整します(画像参照 39、 2)。
- 3) 深さ調整: クラмпレバーを緩め、ヘッドサポートの深さを調整します(画像参照 39、 3)。
- 4) 角度調整: ヘッドサポートの取り付けネジを緩め、角度を調整します(画像参照 39、 4)。
- 5) 全ての設定が調整された後、クラмпレバーをしっかりと閉め、取り付けネジを締め直してください。
- 6) 調整パイプ上のストップの位置を調整ししっかりと締めます(画像参照 38、 4)。



6.14 輸送用車輪の調整

駆動輪が取り付けられた状態で輸送用車輪が地面から約 20 mm の位置にくるように高さを調整します。

7 納品

7.1 最終点検

車椅子を譲渡する前に最終点検を必ず実施してください：

- ・ 駆動輪は正しい位置にありますか？
- ・ クイックリリース軸は自由に回転しますか？
- ・ 空気圧タイヤ: 適切なタイヤ圧がありますか(タイヤ側面の情報を参照)？
- ・ 調整後のみ: ブレーキ(ホイールロック) が正しく調整されていますか？
- ・ 調整後のみ: 該当するキャスト軸首は垂直になっていますか？
- ・ 調整後のみ: 転倒防止具は正しく調整されていますか？

7.2 顧客への配送

車椅子は、外箱を使用し、分解した状態でユーザーへ配送してください。

7.3 製品の納品

正しい納品のためには、以下の手順に従ってください：

- ・ 製品のユーザーと共に座位試験を実施してください。位置の決定については、医学的見地に基づき、特別の注意を払ってください。
- ・ ユーザーおよび付添い人には、本製品の安全な取り扱い方法を説明してください。特に同梱の取扱説明書(ユーザー用)を使用するように説明してください。
- ・ 車椅子の引き渡しの際は、ユーザー用の取扱説明書をユーザー/補助者へ渡してください。

8 メンテナンスと修理

弊社では12ヵ月毎に車椅子の定期メンテナンスを実施することを推奨しています。

クリーニング、消毒、メンテナンス、修理に関する詳細は、取扱説明書(ユーザー用)に記載されています。

サービス マニュアルには修理に関する詳細情報が記載されています。

9 廃棄

9.1 廃棄に関する注意事項

本製品の部品はすべて、各国の環境条例に従って廃棄してください。

9.2 使用制限 (再利用に関して)

⚠ 注意

中古のシートクッション

再利用により発生する機能性および衛生問題

▶ 車椅子が再利用される場合、シートクッションを交換してください。

本製品は再使用に適しています。

中古機器や自動車と同様に、再使用される製品では歪みが増大することがあります。使用期間中ユーザーや第三者の安全を脅かすおそれがあるため、特性や機能の変更は絶対に行わないでください。

まず製品の再使用前に、必ずその製品をよくクリーニングし、消毒してください。その後、必ず公認の有資格者による製品の状態、摩耗や破損の点検を実施してください。摩耗または破損した部品と同様に、体に合わない、またはユーザーに適さない部品は必ず交換する必要があります。

パーツの交換や必要な工具、定期メンテナンスについての詳細情報はサービス マニュアルを参照してください。

10 法的事項について

法的要件についてはすべて、ご使用になる国の国内法に準拠し、それぞれに合わせて異なることもあります。

10.1 保証責任

オットーボック社は、本書に記載の指示ならびに使用方法に沿って製品をご使用いただいた場合に限り保証責任を負うものといたします。不適切な方法で製品を使用したり、認められていない改造や変更を行ったことに起因するなど、本書の指示に従わなかった場合の損傷については保証いたしかねます。

10.2 保証

保証条件に関する詳細は、本製品の担当有資格者(義肢装具製作施設) またはオットーボック社のアフターセールス・サービス(オットーボック・ジャパン) までご連絡ください(本書の巻末に表記の連絡先を参照ください)。

10.3 耐用年数

想定される耐用年数：4年

本製品の設計や製造、取扱説明書の指示内容は、想定される耐用年数に基づいています。これらには、メンテナンスの指示内容も含まれ、製品の効果と安全性を保証するものです。

11 テクニカル データ

備考
<ul style="list-style-type: none"> ▶ テクニカルデータの大部分はmm単位です。特に指定のない場合、製品の設定は 0.5 cm または 1 cm 単位で行うものであり、mm単位では設定はできません。 ▶ 実際調整を行った数値が指定されている数値と異なることがあります。認められている偏差は ±10 mm /±2° です。

備考
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 以下に示されている測定値の中には、理論的に決定された数値も含まれています。 ▶ 全ての調整を、全ての製品バージョンで実行できるとは限りません。また、フレームがコンパクトに設計されているため、調整の組み合わせには限界があります。 ▶ 製造元は技術および偏差に関する変更を行う権利を有します。

概要

	開始
最大積載量 [kg]	M4 XXL: 160; M6 Junior: 90
モビリティに制限のある方が使用中に車で移動する際の最大積載量 [kg]	M6 Junior: 75
輸送重量 (座幅430 mm) [kg] ¹⁾	フレーム: 約9.5 ~ レグサポート: 約 1.4 24" 駆動輪 (一組): 約 3.5
全長 (レグサポートを含む) [mm]	下の表参照
全幅 [mm]	下の表参照
座幅 [mm] ²⁾	下の表参照
シート座高 [mm]	下の表参照
最大全長 [mm]	<1,200 (DIN EN 12183推奨に適合)
キャスターサイズ ["]	5から8
地面とのクリアランス [mm]	<30 (DIN EN 12183推奨に適合)
最小タイヤ圧 [bar] ³⁾	6
許容されているタイヤタイプ - 駆動輪	PUタイヤ、空気圧タイヤ
許容されているタイヤタイプ - キャスター	PUタイヤ、空気圧タイヤ、ソリッドラバー
ステアリング範囲、約 [mm] ^{2) 4)} (座幅 430 mm/奥行420 mmのモデル)	1,300
回転半径 [mm] ²⁾	<1,500 (DIN EN 12183推奨に適合)
許容されている傾斜角 [°]/[%] ⁵⁾⁶⁾⁷⁾	7/12.3

1) 選択されたオプションやモデルに応じて重量は異なります。

2) ISO 7176-5, 8.12準拠。

3) タイヤオプションにより異なるため、タイヤの側面にある印字を参照。

4) 180° の三点方向転換。

5) ホイールロックが有効な状態での駐車にも適用されます。

6) 全方向に適用 (上り、下り、横方向)。

7) ISO 7176-1準拠。

追加情報

開始	最小	最大
レッグサポートを取り付けた場合の全長 [mm]	Start M4 XXL: 870 ¹⁾ Start M6 Junior: 800	Start M4 XXL: 1,090 Start M6 Junior: 1,065
全幅 (標準駆動輪を含む) [mm] ²⁾	Start M4 XXL: 645 Start M6 Junior: 495	Start M4 XXL: 795 Start M6 Junior: 620
全幅 (ドラムブレーキを搭載した駆動輪を含む) [mm] ²⁾	Start M4 XXL: 670 Start M6 Junior: 520	Start M4 XXL: 820 Start M6 Junior: 645
全長 (mm)全長 (mm)	Start M4 XXL: 840 ³⁾ Start M6 Junior: 840 ⁴⁾	Start M4 XXL: 1,045 Start M6 Junior: 1,040 ⁴⁾
全長 (折り畳んだ状態、レッグサポートなし) [mm]	Start M4 XXL: 760 Start M6 Junior: 750	Start M4 XXL: 1,090 Start M6 Junior: 950
Width (folded) [mm]幅(折り畳んだ状態) [mm]	Start M4 XXL: 340 Start M6 Junior: 300	Start M4 XXL: --- Start M6 Junior: ---
高さ(折り畳んだ状態) [mm]	Start M4 XXL: 840 ³⁾ Start M6 Junior: 840	Start M4 XXL: 1,045 Start M6 Junior: ---
総重量 (ユーザーが乗車していない状態) [kg]	Start M4 XXL: 17.5 Start M6 Junior: 12	Start M4 XXL: 20 Start M6 Junior: 14.5
取り外し可能な最も重いパーツの重量[kg]	---	1.8
シート傾斜 [°]	0	5
シート奥行有効値 [mm]	Start M4 XXL: 430 Start M6 Junior: 310	Start M4 XXL: 490 Start M6 Junior: 370
シート幅有効値 [mm]	Start M4 XXL: 430 Start M6 Junior: 280	Start M4 XXL: 580 Start M6 Junior: 380
シート前座高 [mm]	Start M4 XXL: 400 Start M6 Junior: 400	Start M4 XXL: 510 Start M6 Junior: 490
シート後座高 [mm]	Start M4 XXL: 380 Start M6 Junior: 370	Start M4 XXL: 500 Start M6 Junior: 490
バックレストの角度 [°]	0 (垂直)	Start M4 XXL: 3 ⁵⁾ Start M6 Junior: 30 ⁶⁾
バックレストの高さ [mm]	Start M4 XXL: 400 Start M6 Junior: 300	Start M4 XXL: 475 Start M6 Junior: 375
下肢長さ [mm]	Start M4 XXL: 270 Start M6 Junior: 160	Start M4 XXL: 470 Start M6 Junior: 450
レッグサポートと座面間の角度 ⁷⁾ [°]	70	80
フットプレートの座面に対する角度 [°]	完全調整可能	
アームサポートから座面までの距離 [mm]	Start M4 XXL: 200 Start M6 Junior: 200	Start M4 XXL: --- Start M6 Junior: 400
アームサポートの前位置 [mm]	Start M4 XXL: 220 ⁸⁾ Start M6 Junior: 175	Start M4 XXL: 310 Start M6 Junior: 270
ハンドリム直径 [mm]	470	540
Quickchange軸の水平位置 [mm]	Start M4 XXL: 30 Start M6 Junior: - 35 ⁹⁾	Start M4 XXL: 90 Start M6 Junior: 35 ⁹⁾
最低回転半径 [mm] ¹⁰⁾	Start M4 XXL: 790 ¹¹⁾ Start M6 Junior: 570	Start M4 XXL: 980 ¹²⁾ Start M6 Junior: ---

1) シート奥行とホイールベースが最小の場合。

2) ハンドリムの狭い取り付けの場合。

3) シート高とバックレスト高さが最小の場合。

4) 最小値は駆動輪サイズ22"、高さ調整ができないプッシュハンドルの場合、最大値は高さ調整可能プッシュハンドルの場合。

5) 標準バックレストパイプの場合。

6) バックレスト角度が 30° の場合。

7) 標準レッグサポートの場合、角度調整可能レッグサポートの場合は該当しません。

8) 長い前腕サポート場合 ≥ 160 mm。

9) 最小値 = 自動的ユーザーのための設定; 最大値 = 他動的ユーザーのための設定。

10) ISO 7176-5準拠。

11) シート奥行と座幅が最小の場合。

12) シート奥行と座幅が最大の場合。

全長（レッグサポートを含む） [mm]

開始	駆動輪サイズ					
	20インチ		22インチ		24インチ	
	最小 ¹⁾	最大 ²⁾	最小 ¹⁾	最大 ²⁾	最小 ¹⁾	最大 ²⁾
M4 XXL	---	---	870	1,060	895	1,090
M6	800	1,015	825	1,040	850	1,065

1) シート奥行最小（SD）、標準下肢長さ最小（300 mm）、短/可動ホイールベースでの測定

2) シート奥行最大（SD）、標準下肢長さ最大（470 mm）、長/受動ホイールベースでの測定

全幅 [mm]

△ 注意

制限値超過

非常口へのアクセスが不可能になり負傷のリスク

- ▶ 操作時の手動車椅子に推奨されている全幅は 700 mmです。この仕様の場合、妨げられることなく避難経路や電車の車内などを問題なく通過することができます。
- ▶ 特大幅のシートが取り付けられているバージョンでは車椅子寸法の実際値がこの推奨値を超えていることがある点にご注意ください（下の表を参照）。

座幅	標準駆動輪、最大	ドラムブレーキが搭載された駆動輪、最大
280	495	520
305	515	545
330	545	570
355	570	595
380	595	620
405	620	645
430	645	670
455	670	695
480	695	720
505	720	745
530	745	770
555	770	795
580	795	820

1) ハンドリムが狭く取り付けられている場合（広い場合は+20mm）。高さ調整可能なサイドパネル搭載の場合：全幅+20 mm。

シート前座高 [mm]¹⁾ – Start M4 XXL

キャスターフォーク	キャスターサイズ				
	5インチ	5.5インチ	6インチ	7インチ	8インチ
短く	400–440	420–440	430–450	450–470	---
長い	440–470	440–480	450–490	470–500	480–510

シート前座高 [mm]¹⁾ – Start M6 Junior

キャスターフォーク	キャスターサイズ	
	5インチ	6インチ
短く	400–440	430–450
長い	440–470	450–490

1) 調整範囲 = シート傾斜 0°、シートクッションがない状態:

- ・ シート前座高からシート後座高を引いた値 <= 35 mm
- ・ キャスターはシート前座高に依存します

- ・ キャスターフォークはシート前座高とキャスターに依存します
- ・ 駆動輪サイズは後座高に依存します

シート後座高 [mm]¹⁾ – Start M4 XXL

取り付け位置	駆動輪サイズ	
	22インチ	24インチ
1	380	410
2	410	440
3	440	470
4	470	500

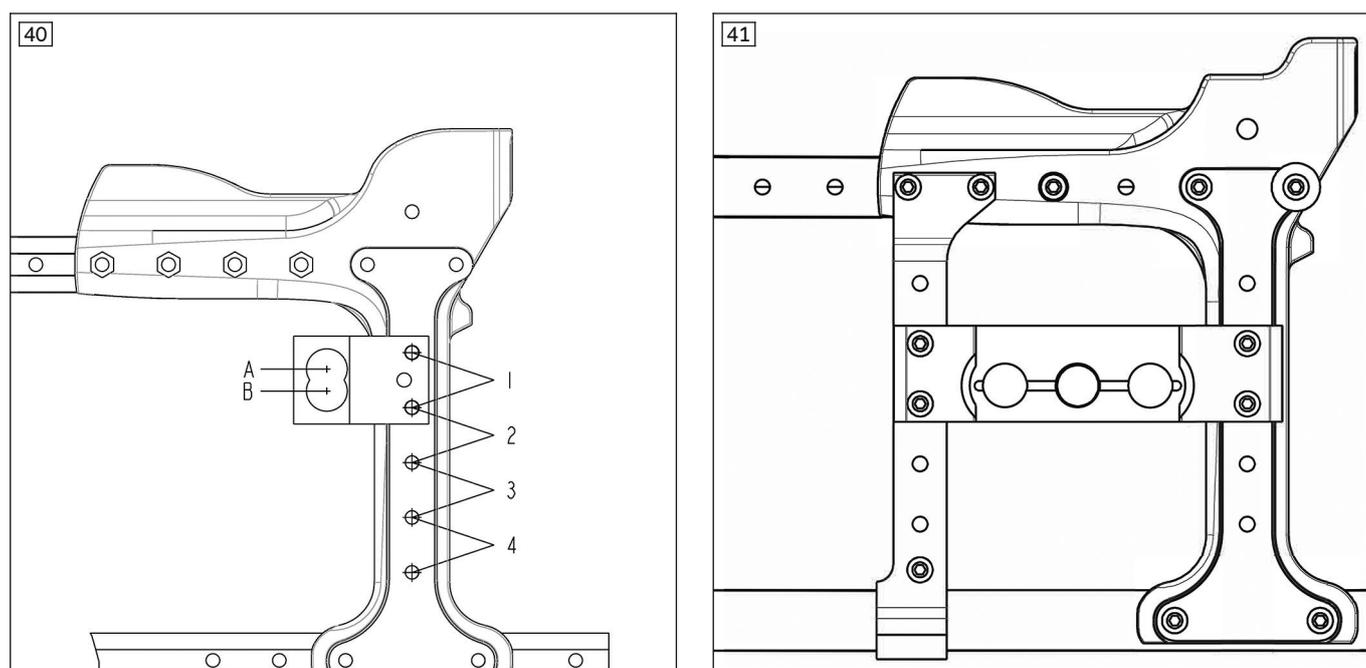
シート後座高 [mm]¹⁾ – Start M6 Junior

駆動輪サイズ	設定範囲
20インチ	370–430
22インチ	380–450
24インチ	410–490

¹⁾ 記載されている値は、理論的に定義され、端数処理された値です。最大偏差 10 mm。前座高は、選択したホイールサイズ、キャスターフォーク、取り付け位置によって異なります。座高表をご確認ください！

シートクッションなし、シート傾斜 0° の状態。可能なシート傾斜最大値は 35 mm です。

駆動輪アダプター – Start M6 Junior (左); Start M4 XXL (右)



環境条件

温度および相対湿度	
使用時の温度 [° C(° F)]	-10 ~ +40(14 ~ 104)
保管および輸送時の温度 [° C(° F)]	-10 ~ +40(14 ~ 104)
相対湿度 [%]	45 ~ 85

12 追加情報

12.1 必要な工具

調整およびメンテナンス作業には以下のツールが必要となります:

- ・ 六角レンチ 4–6 mm
- ・ リング/オープンエンド・レンチ、サイズ 10, 11, 13, 19, 24

- ・ スクリュードライバーセット
- ・ トルクレンチ(測定範囲 5-50 Nm)
- ・ タイヤレバー
- ・ タイヤポンプ

12.2 ネジ締め時のトルク値

特に指定がない場合、ねじ接合は以下のトルクで行います:

- ・ ねじ径 M4: 3 Nm
- ・ ねじ径 M5: 5 Nm
- ・ ねじ径 M6: 10 Nm
- ・ ねじ径 M8: 25 Nm



A series of horizontal lines for writing, spanning the width of the page.



A series of horizontal lines for writing, spanning the width of the page.

Kundenservice/Customer Service

Europe

Otto Bock HealthCare Deutschland GmbH
Max-Näder-Str. 15 · 37115 Duderstadt · Germany
T +49 5527 848-3433 · F +49 5527 848-1460
healthcare@ottobock.de · www.ottobock.de

Otto Bock Healthcare Products GmbH
Brehmstraße 16 · 1110 Wien · Austria
F +43 1 5267985
service-admin.vienna@ottobock.com · www.ottobock.at

Otto Bock Adria d.o.o. Sarajevo
Ramiza Salčina 85
71000 Sarajevo · Bosnia-Herzegovina
T +387 33 255-405 · F +387 33 255-401
obadria@bih.net.ba · www.ottobockadria.com.ba

Otto Bock Bulgaria Ltd.
41 Tzar Boris IIIrd Blvd. · 1612 Sofia · Bulgaria
T +359 2 80 57 980 · F +359 2 80 57 982
info@ottobock.bg · www.ottobock.bg

Otto Bock Suisse AG
Luzerner Kantonsspital 10 · 6000 Luzern 16 · Suisse
T +41 41 455 61 71 · F +41 41 455 61 70
suisse@ottobock.com · www.ottobock.ch

Otto Bock ČR s.r.o.
Protetická 460 · 33008 Zruč-Senec · Czech Republic
T +420 377825044 · F +420 377825036
email@ottobock.cz · www.ottobock.cz

Otto Bock Iberica S.A.
C/Majada, 1 · 28760 Tres Cantos (Madrid) · Spain
T +34 91 8063000 · F +34 91 8060415
info@ottobock.es · www.ottobock.es

Otto Bock France SNC
4 rue de la Réunion · CS 90011
91978 Courtaboeuf Cedex · France
T +33 1 69188830 · F +33 1 69071802
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Healthcare plc
32, Parsonage Road · Englefield Green
Egham, Surrey TW20 0LD · United Kingdom
T +44 1784 744900 · F +44 1784 744901
bockuk@ottobock.com · www.ottobock.co.uk

Otto Bock Hungária Kft.
Tatai út 74. · 1135 Budapest · Hungary
T +36 1 4511020 · F +36 1 4511021
info@ottobock.hu · www.ottobock.hu

Otto Bock Adria d.o.o.
Dr. Franje Tuđmana 14 · 10431 Sveta Nedelja · Croatia
T +385 1 3361 544 · F +385 1 3365 986
ottobockadria@ottobock.hr · www.ottobock.hr

Otto Bock Italia Srl Us
Via Filippo Turati 5/7 · 40054 Budrio (BO) · Italy
T +39 051 692-4711 · F +39 051 692-4720
info.italia@ottobock.com · www.ottobock.it

Otto Bock Benelux B.V.
Mandenmaker 14 · 5253 RC
Nieuwkuijk · The Netherlands
T +31 73 5186488 · F +31 73 5114960
info.benelux@ottobock.com · www.ottobock.nl

Industria Ortopédica Otto Bock Unip. Ltda.
Av. Miguel Bombarda, 21 - 2º Esq.
1050-161 Lisboa · Portugal
T +351 21 3535587 · F +351 21 3535590
ottobockportugal@mail.telepac.pt

Otto Bock Polska Sp. z o. o.
Ulica Koralowa 3 · 61-029 Poznań · Poland
T +48 61 6538250 · F +48 61 6538031
ottobock@ottobock.pl · www.ottobock.pl

Otto Bock Romania srl
Șos de Centura Chitila - Mogoșoia Nr. 3
077405 Chitila, Jud. Ilfov · Romania
T +40 21 4363110 · F +40 21 4363023
info@ottobock.ro · www.ottobock.ro

OOO Otto Bock Service
p/o Pultikovo, Business Park „Greenwood”,
Building 7, 69 km MKAD
143441 Moscow Region/Krasnogorskiy Rayon
Russian Federation
T +7 495 564 8360 · F +7 495 564 8363
info@ottobock.ru · www.ottobock.ru

Otto Bock Scandinavia AB
Koppargatan 3 · Box 623 · 60114 Norrköping · Sweden
T +46 11 280600 · F +46 11 312005
info@ottobock.se · www.ottobock.se

Otto Bock Slovakia s.r.o.
Röntgenova 26 · 851 01 Bratislava 5 · Slovak Republic
T +421 2 32 78 20 70 · F +421 2 32 78 20 89
info@ottobock.sk · www.ottobock.sk

Otto Bock Sava d.o.o.
Industrijska bb · 34000 Kragujevac · Republika Srbija
T +381 34 351 671 · F +381 34 351 671
info@ottobock.rs · www.ottobock.rs

Otto Bock Ortopedi ve
Rehabilitasyon Tekniği Ltd. Şti.
Mecidiyeköy Mah. Lati Lokum Sok.
Meriç Sitesi B Blok No: 30/B
34387 Mecidiyeköy-Istanbul · Turkey
T +90 212 3565040 · F +90 212 3566688
info@ottobock.com.tr · www.ottobock.com.tr

Africa

Otto Bock Algérie E.U.R.L.
32, rue Ahcène Outaleb - Coopérative les Mimosas
Mackle-Ben Aknoun · Alger · DZ Algérie
T +213 21 913863 · F +213 21 913863
information@ottobock.fr · www.ottobock.fr

Otto Bock Egypt S.A.E.
28 Soliman Abaza St. Mohandessein · Giza · Egypt
T +20 2 37606818 · F +20 2 37605734
info@ottobock.com.eg · www.ottobock.com.eg

Otto Bock South Africa (Pty) Ltd
Building 3 Thornhill Office Park · 94 Bekker Road
Midrand · Johannesburg · South Africa
T +27 11 564 9360
info-southafrica@ottobock.co.za
www.ottobock.co.za

Americas

Otto Bock Argentina S.A.
Av. Belgrano 1477 · CP 1093
Ciudad Autónoma de Buenos Aires · Argentina
T +54 11 5032-8201 / 5032-8202
atencionclientes@ottobock.com.ar
www.ottobock.com.ar

Otto Bock do Brasil Tecnica Ortopédica Ltda.
Alameda Maria Tereza, 4036, Bairro Dois Córregos
CEP: 13.278-181, Valinhos-São Paulo · Brasil
T +55 19 3729 3500 · F +55 19 3269 6061
ottobock@ottobock.com.br · www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Canada
5470 Harvester Road
Burlington, Ontario, L7L 5N5, Canada
T +1 800 665 3327 · F +1 800 463 3659
CACustomerService@ottobock.com
www.ottobock.ca

Oficina Ottobock Habana
Calle 3ra entre 78 y 80.
Edificio Jerusalem · Oficina 112 · Calle 3ra.
Playa, La Habana. Cuba
T +53 720 430 69 · +53 720 430 81
hector.corcho@ottobock.com.br
www.ottobock.com.br

Otto Bock HealthCare Andina Ltda.
Calle 138 No 53-38 · Bogotá · Colombia
T +57 1 8619988 · F +57 1 8619977
info@ottobock.com.co · www.ottobock.com.co

Otto Bock de Mexico S.A. de C.V.
Prolongación Calle 18 No. 178-A
Col. San Pedro de los Pinos
C.P. 01180 México, D.F. · Mexico
T +52 55 5575 0290 · F +52 55 5575 0234
info@ottobock.com.mx · www.ottobock.com.mx

Otto Bock HealthCare LP
11501 Alterra Parkway Suite 600
Austin, TX 78758 · USA
T +1 800 328 4058 · F +1 800 962 2549
USCustomerService@ottobock.com
www.ottobockus.com

Asia/Pacific

Otto Bock Australia Pty. Ltd.
Suite 1.01, Century Corporate Centre
62 Norwest Boulevard
Baulkham Hills NSW 2153 · Australia
T +61 2 8818 2800 · F +61 2 8814 4500
healthcare@ottobock.com.au · www.ottobock.com.au

Beijing Otto Bock Orthopaedic Industries Co., Ltd.
B12E, Universal Business Park
10 Jiuxianqiao Road, Chao Yang District
Beijing, 100015, P.R. China
T +8610 8598 6880 · F +8610 8598 0040
news-service@ottobock.com.cn
www.ottobock.com.cn

Otto Bock Asia Pacific Ltd.
Unit 1004, 10/F, Greenfield Tower, Concordia Plaza
1 Science Museum Road, Tsim Sha Tsui
Kowloon, Hong Kong · China
T +852 2598 9772 · F +852 2598 7886
info@ottobock.com.hk · www.ottobock.com

Otto Bock HealthCare India Pvt. Ltd.
20th Floor, Express Towers
Nariman Point, Mumbai 400 021 · India
T +91 22 2274 5500 / 5501 / 5502
information@indiaottobock.com · www.ottobock.in

Otto Bock Japan K. K.
Yokogawa Building 8F, 4-4-44 Shibaura
Minato-ku, Tokyo, 108-0023 · Japan
T +81 3 3798-2111 · F +81 3 3798-2112
ottobock@ottobock.co.jp · www.ottobock.co.jp

Otto Bock Korea HealthCare Inc.
4F Agaworld Building · 1357-74, Seocho-dong
Seocho-ku, 137-070 Seoul · Korea
T +82 2 577-3831 · F +82 2 577-3828
info@ottobockkorea.com · www.ottobockkorea.com

Otto Bock South East Asia Co., Ltd.
1741 Phaholyothin Road
Kwaeng Chatuchark · Khet Chatuchark
Bangkok 10900 · Thailand
T +66 2 930 3030 · F +66 2 930 3311
obsea@ottobock.co.th · www.ottobock.co.th

Other countries

Ottobock SE & Co. KGaA
Max-Näder-Straße 15 · 37115 Duderstadt · Germany
T +49 5527 848-1590 · F +49 5527 848-1676
reha-export@ottobock.de · www.ottobock.com

Ihr Fachhändler | Your specialist dealer



Otto Bock Mobility Solutions GmbH
Lindenstraße 13 · 07426 Königsee/Germany
www.ottobock.com

